

尼崎市立学校の平成30年度いじめの 認知状況について

1 いじめの認知件数

平成30年度の認知件数は、小学校で217件、中学校で99件であり、前年度と比べ、小学校101件、中学校20件の増加となっている。これは、直近でいじめの重大事態案件が発生したことなどにより、各学校がより一層、いじめ問題を重く捉え、いじめを積極的に認知することで、重大事態へと発展しないよう、また、新たないじめの未然防止に繋がるように取組みが進んでいることが要因のひとつと考えられる。

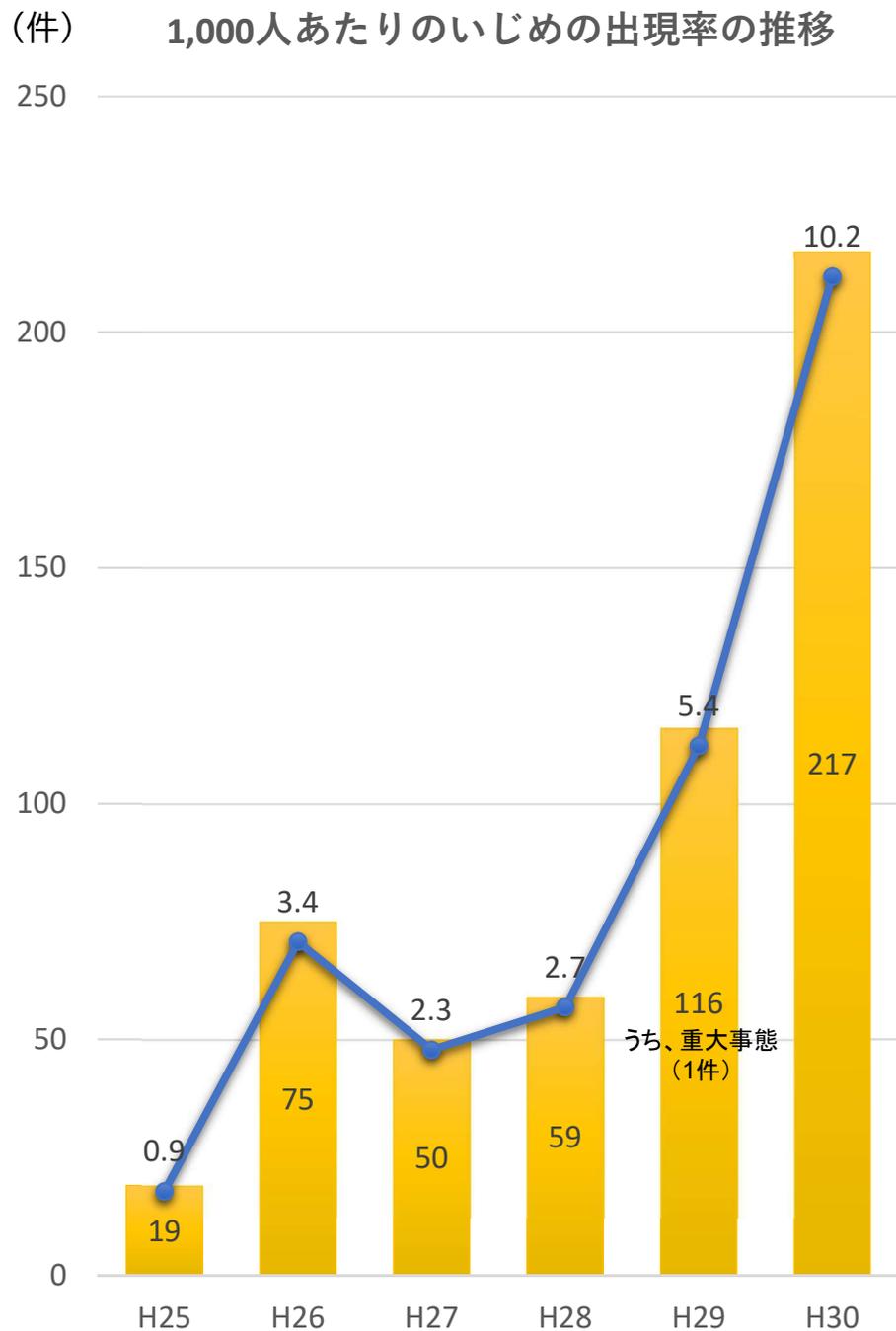
なお、平成30年度の小中学校の認知件数316件のうち、いじめが解消したものが219件(小学校146件、中学校73件)(69.3%)、解消に向けて取組中が96件(小学校71件、中学校25件)(30.4%)、その他が1件(中学校1件)(0.3%)となっている。

(単位：件)

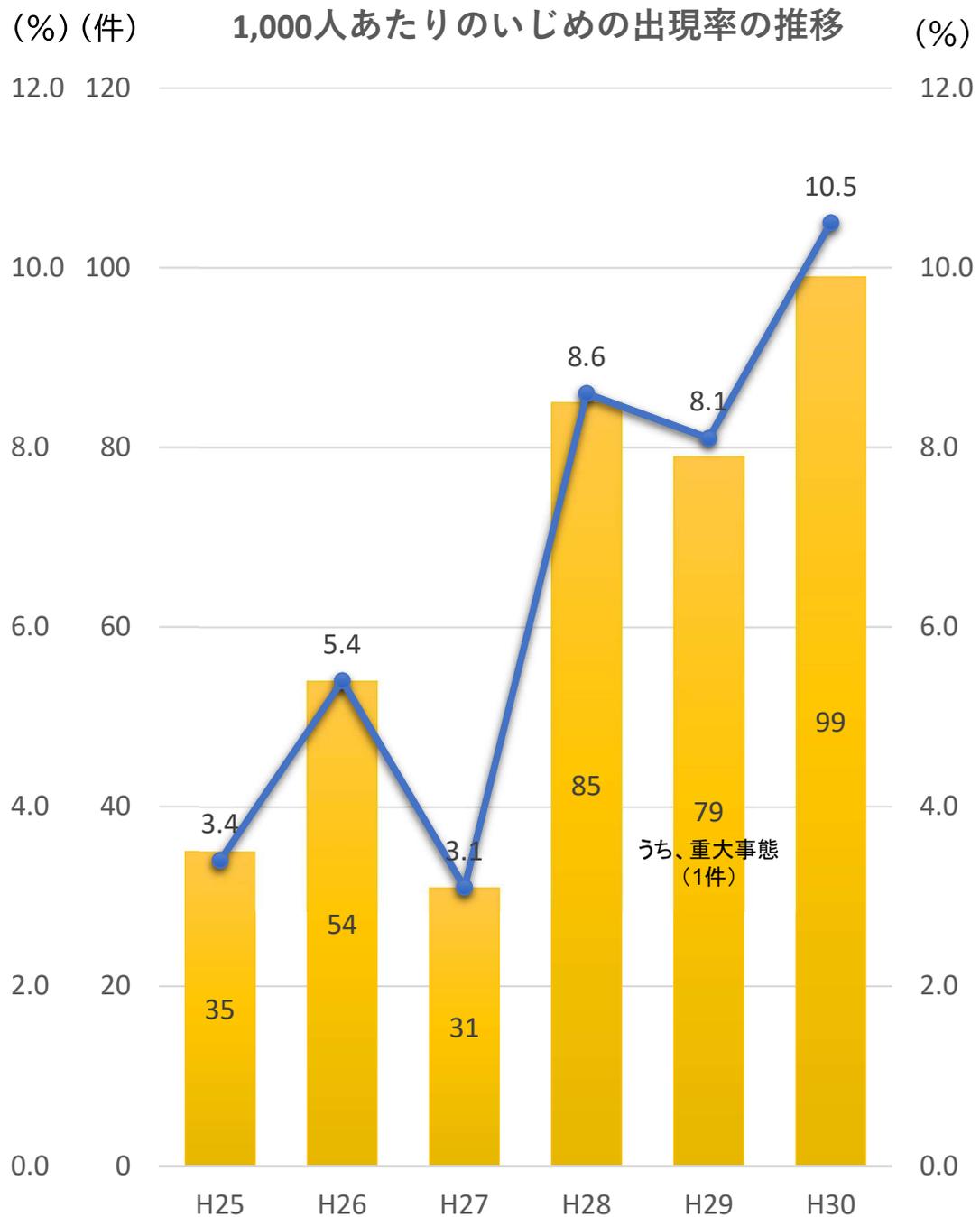
	平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		全国の 1,000人 あたり (H30数値)
	認知件数	1,000人 あたり											
小学校	19	0.9	75	3.4	50	2.3	59	2.7	116	5.4	217	10.2	66
中学校	35	3.4	54	5.4	31	3.1	85	8.6	79	8.1	99	10.5	29.8

(参考)	令和元年度(11月末時点)	
	認知件数	1,000人 あたり
小学校	659	30.9
中学校	370	39.2

尼崎市立小学校のいじめ認知件数及び
1,000人あたりのいじめの出現率の推移



尼崎市立中学校のいじめ認知件数及び
1,000人あたりのいじめの出現率の推移



2 いじめの態様

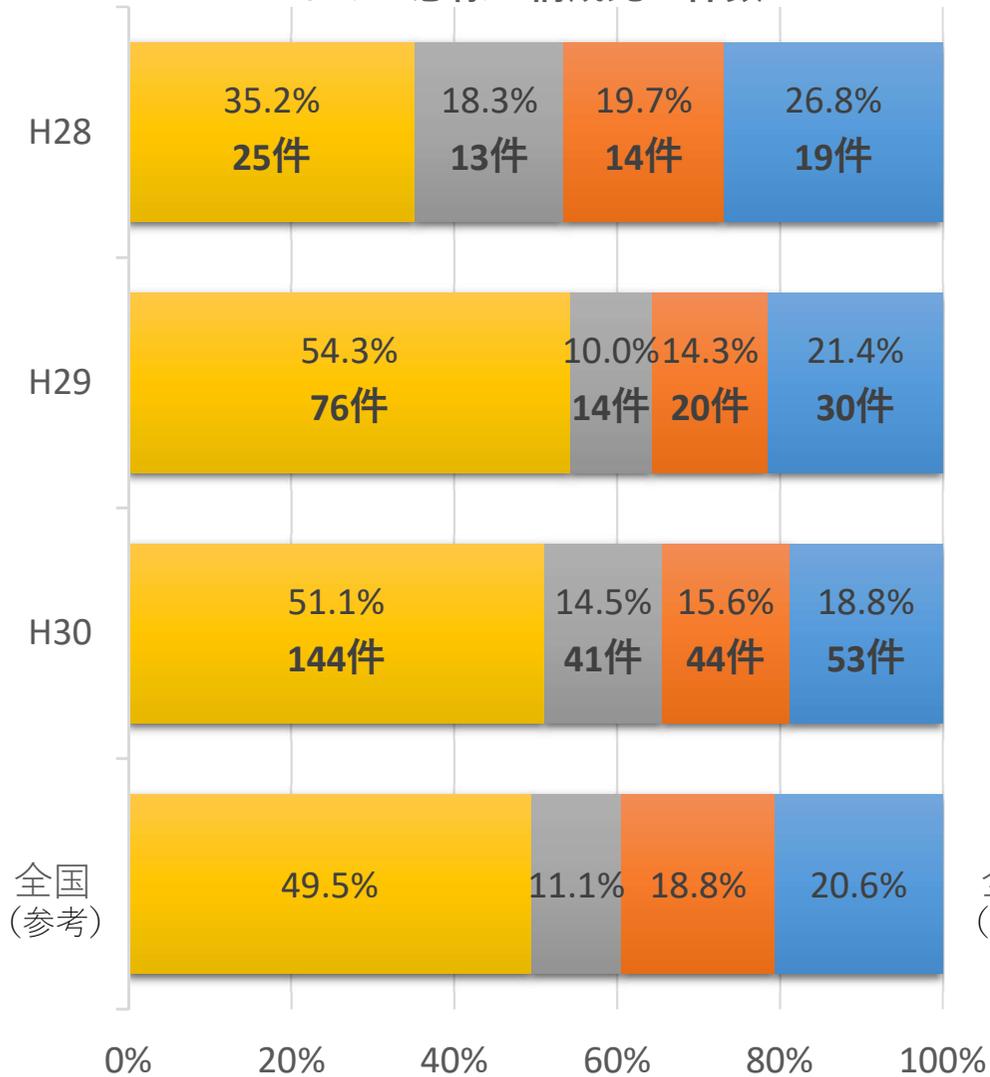
平成30年度のいじめの態様別では、小中学校ともに、「冷やかしやからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる」の件数がもっとも多くなっており、前年度と比較しても小学校76件→144件、中学校57件→73件、さらに、構成比においても全国値を上回るポイントとなっている。件数の増加からも見られるように、尼崎市では、より積極的に、いじめを認知する取組みが進んでいることが分かる。

そのほか、小学校では、全体的に件数の大幅な増加が見られたのに対し、中学校では、「その他」の件数が17件→13件と減少し、全国値を半分以上下回るポイントとなっている。

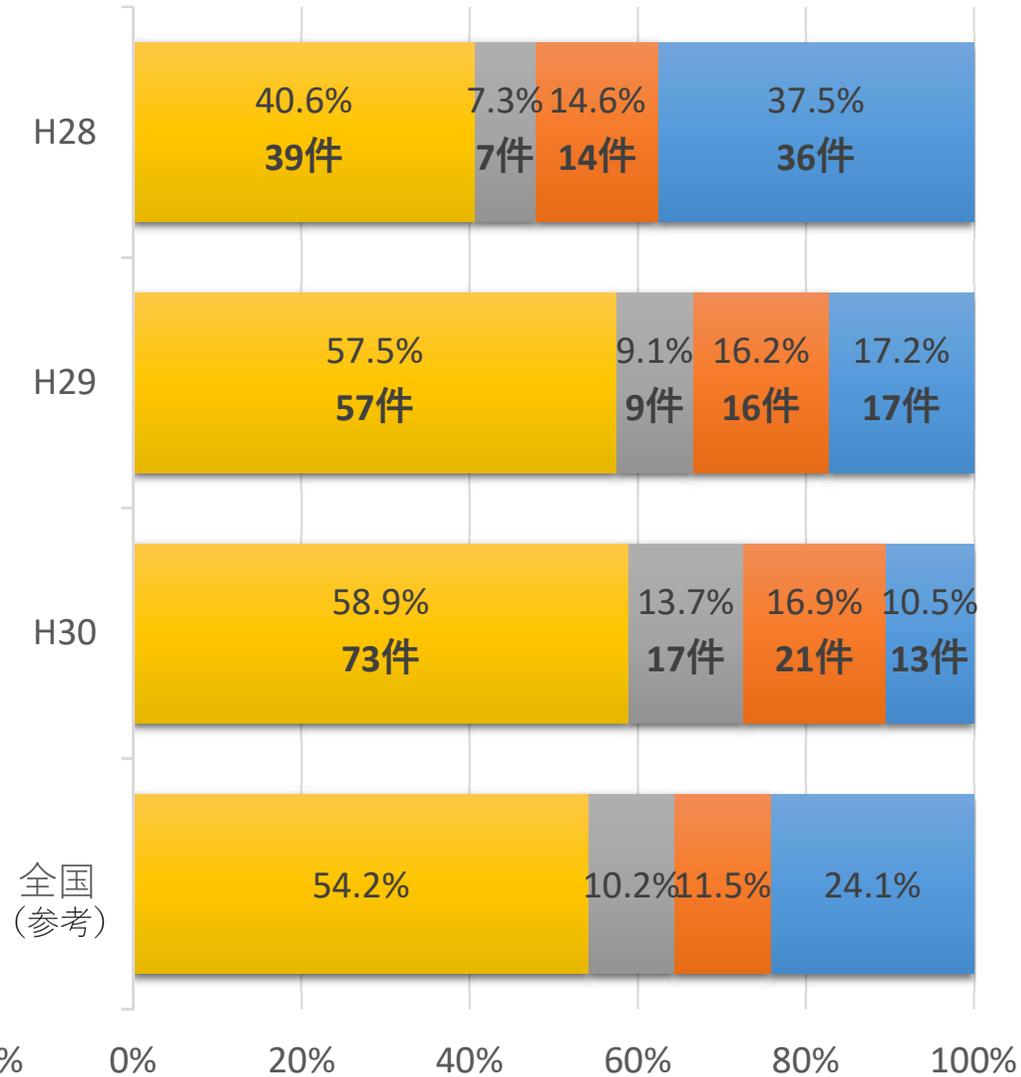
(単位：件)

いじめの態様 態様の項目	平成28年度				平成29年度				平成30年度					
	小学校	構成比	中学校	構成比	小学校	構成比	中学校	構成比	小学校	構成比	全国	中学校	構成比	全国
冷やかしやからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる	25	35.2%	39	40.6%	76	54.3%	57	57.5%	144	51.1%	49.5%	73	58.9%	54.2%
仲間はずれ、集団による無視	13	18.3%	7	7.3%	14	10.0%	9	9.1%	41	14.5%	11.1%	17	13.7%	10.2%
軽くぶつかる、遊ぶふりをして叩く、蹴る	14	19.7%	14	14.6%	20	14.3%	16	16.2%	44	15.6%	18.8%	21	16.9%	11.5%
その他 ・ひどくぶつかる、叩く、蹴る ・金品をたかられる ・金品を隠す、盗む、壊す、捨てる ・嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされる、させられる ・パソコンや携帯電話等での誹謗中傷等	19	26.8%	36	37.5%	30	21.4%	17	17.2%	53	18.8%	20.6%	13	10.5%	24.1%
合計（複数回答）	71	100.0%	96	100.0%	170	100.0%	116	100.0%	282	100.0%	100.0%	124	100.0%	100.0%

尼崎市立小学校の
いじめの態様の構成比と件数



尼崎市立中学校の
いじめの態様の構成比と件数



- 冷やかしやからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる
- 仲間はずれ、集団による無視
- 軽くぶつかる、遊ぶふりをして叩く、蹴る
- その他

3 いじめの発見のきっかけ

平成30年度のいじめの発見のきっかけでは、小中学校ともに、「当該児童生徒(本人)の保護者からの訴え」がもっとも高くなっており、特に、小学校では件数が48件→97件で倍増しており、平成28年度と比較すると4倍にも増加している。一方、中学校では、全体的に件数が増加している中で、「本人からの訴え」は34件→24件と減少しており、構成比で見ても、43.0%→24.2%と、大幅に減少している。

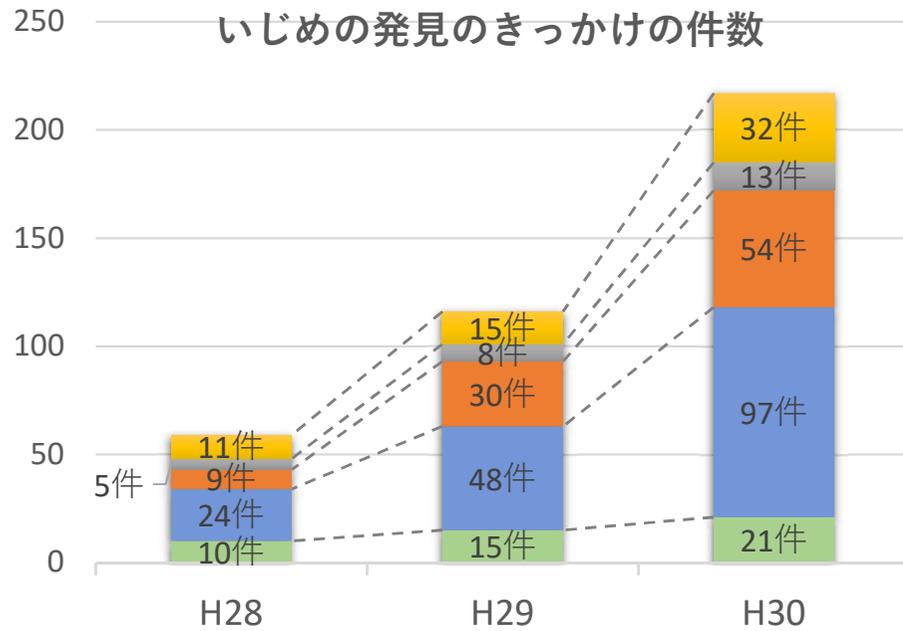
また、『学校の教職員等が発見』の構成比が小中学校ともに前年度を上回っており、特に、「その他」で「学級担任以外の教職員が発見」や「アンケート調査など学校の取組により発見」の件数が増加していることから、各学校がいじめ問題への取組みを強化し、組織的に対応がされていることが分かる。

(単位：件)

いじめの発見のきっかけ	平成28年度				平成29年度				平成30年度						
	小学校	構成比	中学校	構成比	小学校	構成比	中学校	構成比	小学校	構成比	全国	中学校	構成比	全国	
学校の教職員等が発見	16	27.1%	19	22.4%	23	19.8%	14	17.7%	45	20.7%	69.4%	31	31.3%	53.5%	
内 数	学級担任が発見	11	18.6%	8	9.4%	15	12.9%	11	13.9%	32	14.7%	10.9%	21	21.2%	10.2%
	その他	5	8.5%	11	13.0%	8	6.9%	3	3.8%	13	6.0%	58.5%	10	10.1%	43.3%
	・学級担任以外の教職員が発見 ・アンケート調査など学校の取組により発見														
学校の教職員以外からの情報により発見	43	72.9%	66	77.6%	93	80.2%	65	82.3%	172	79.3%	30.6%	68	68.7%	46.5%	
本人からの訴え	9	15.3%	38	44.7%	30	25.9%	34	43.0%	54	24.9%	16.4%	24	24.2%	25.1%	
当該児童生徒(本人)の保護者からの訴え	24	40.7%	23	27.0%	48	41.4%	26	32.9%	97	44.7%	9.7%	36	36.4%	13.8%	
その他	10	16.9%	5	5.9%	15	12.9%	5	6.3%	21	9.7%	4.5%	8	8.1%	7.6%	
・児童生徒(本人除く)からの情報 ・保護者(本人の保護者除く)からの情報 ・学校以外の関係機関(相談機関含む)からの情報 ・その他(匿名による投書など)															
合計	59	100.0%	85	100.0%	116	100.0%	79	100.0%	217	100.0%	100.0%	99	100.0%	100.0%	

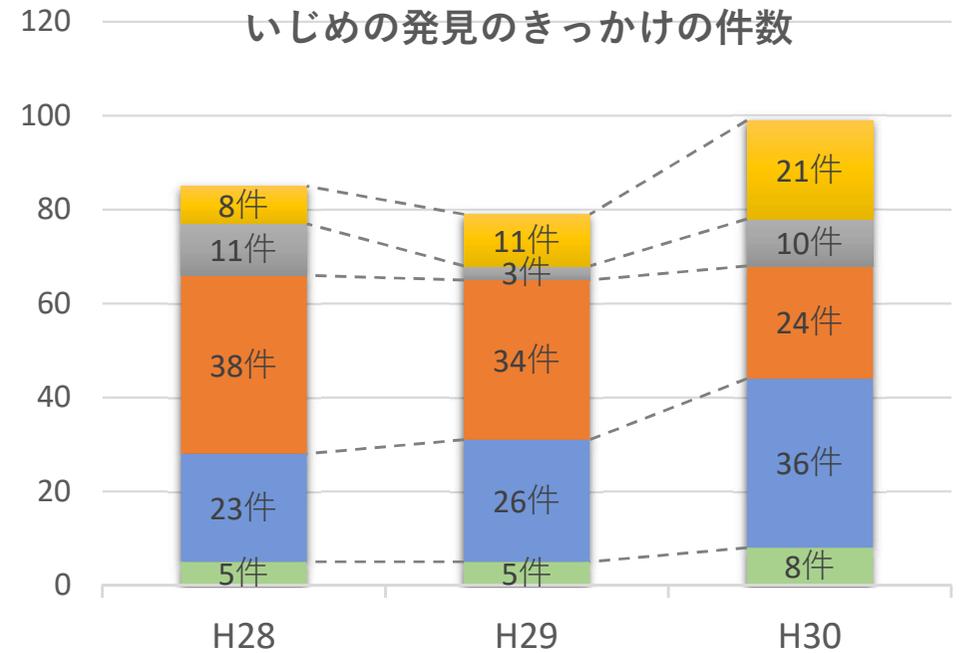
尼崎市立小学校における

いじめの発見のきっかけの件数



尼崎市立中学校における

いじめの発見のきっかけの件数



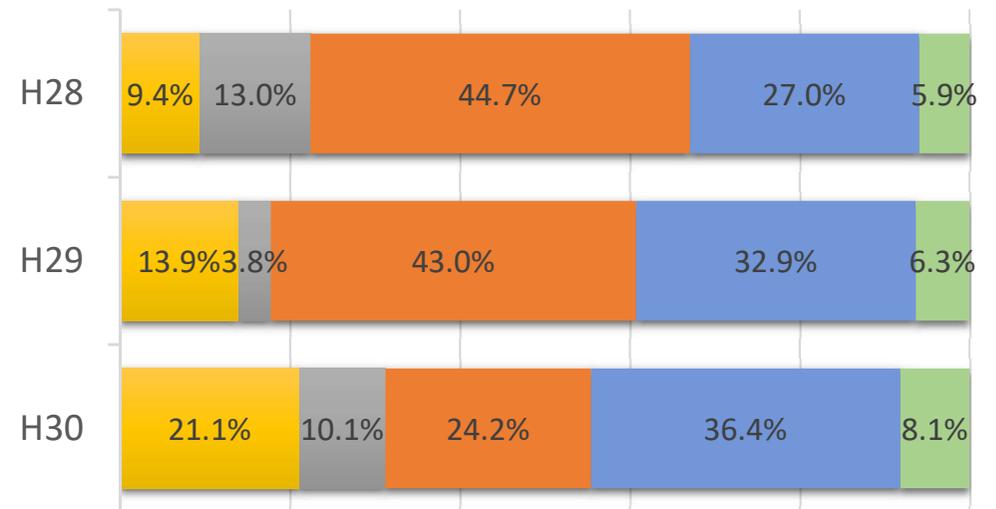
尼崎市立小学校の

いじめの発見のきっかけの構成比



尼崎市立中学校の

いじめの発見のきっかけの構成比



■ 学級担任が発見 ■ その他 ■ 本人からの訴え ■ 当該児童生徒（本人）の保護者からの訴え ■ その他